

第三十四回 「全日本中学生水の作文コンクール」

広島県優秀作文集

平成三十四年

広島県土木局

目次

優秀賞（応募順）

世界の水と日本

広島市立城山北中学校

三年

瀬川 菜乃子

限りある資源 水

近畿大学附属東広島中学校

二年

中山 実紅

水とホタルの輝き

近畿大学附属東広島中学校

二年

山形 実穂

入選（応募順）

水と私たちの生活

広島市立船越中学校

二年

白築 千夏

水と色

広島市立船越中学校

二年

松井 咲穂

水

広島市立船越中学校

二年

山田 莉々

水があることと生まれる生活

広島市立城山北中学校

三年

井上 遥香

切っても切れない

広島市立城山北中学校

三年

瀧川 里奈

水を大切にすること

近畿大学附属東広島中学校

二年

岡田 茜

「水」のありがたさ

近畿大学附属東広島中学校

二年

遠原 雅也

優 秀 賞

世界の水と日本

広島市立城山北中学校 三年 瀬川 菜々子

私は、ある写真が心に残っている。それはある国の少女が水をたっぷり入れた瓶を頭に乘せている写真だ。周りは殺風景だが、その少女がカメラを見つめるまなざしは強かった。何か訴えかけているような真剣さと、どこか悲しげにも見える目だった。

それから私は、世界の水と日本の関わりに関心がわいた。いろいろ調べてみると驚きの事実ばかりだった。十二億人もの人々が未だに安全な飲料水を確保できていないこと。開発途上国における疾病原因の八十八パーセントが汚水によるものであることなどだ。日本にいと蛇口から出る水は心配なく、毎日のように利用できる。それが当たり前のように思ってしまう。水で困る国があるのは私達にとって現実味がわかないのだ。さらに調べを進めていくと、ある言葉に興味を持った。それは、ロンドン大学の教授が紹介した「バーチャルウォーター」だ。難しい考え方かと思ったが、結局は日本が海外から食料を輸入している分だけ水も輸入していることになるわけだ。確かに、そう考えると日本は大量に食料を輸入することでその生産に必要な分だけの自国の水を使わないで済んでいる。外国から食料だけでなく、目に見えない形で水をもらっていた。だから、外国で起きる水問題は他人事ではなく、身近な事に感じられた。水質汚染や、水不足の国があるのだから、日本だっていつその事態に陥るか分からない。日頃、支えてもらっている外国のどんな水問題も共に乗り越える方法を探さないといけないなと実感した。今日の食卓に並ぶ食事だって世界の水があるからこそだ。この「バーチャルウォーター」の概念を知ってから、私は世界の水が大きな存在に感じられるようになった。やはり、地球は一つで水が生きる星であり、世界各地は水でつな

がっているのだと思う。

また、水は人間の行動によって姿を変える生き物のように思える。人間が経済発展を目指すばかりだと、水質汚染を起し悪い姿に変わり、人間に仕返しをする。人間が水を分け合い、ごみを捨てたりせず、優しく扱えば作物を豊かにし、美しい良い姿に変わる。人間に恵みをもたらしてくれる。そんな二つの顔を合わせ持つ、生き物だと感じる。

なかには、六十億の人口の中でたった一人自分が水質汚染対策をしても意味がないと考える人がいるかもしれない。世界の水について考えたり、水を大切にしても何も変わらないと思うかもしれない。けれど、私は思う。勉強のように小さな毎日の取り組みの積み重ねが最終的に実を結ぶのではないか。小さな事、例えば食事を残さず食べることを心がければよい。そんな簡単な事で外国の水をむだにしないで済む、少しは世界を大切にできると思う。

私は今回、水の大きな役割、外国との関わりについて知ることができた。小さなことの一つ一つが何十年、何百年後、未来の人達の水が生きる土台になるよう取り組んでいきたい。あの写真の少女のような目をした子供達が笑顔になる世界を願って。

優 秀 賞

限りある資源 水

近畿大学附属東広島中学校 二年 中山 実紅

「地球は青かった。」

地球を宇宙から見ると、青く見える。ところが青く見えるのは、地球が水で溢れているからだ。

地球の面積の約七〇パーセントを海が占めているが、飲み水など生活に使えるのはほんのわずかしかない。水は地球を循環する貴重な資源で、全ての人が平等に使えるようにならなければいけないと思う。

日本に暮らす私達は、大変恵まれた環境の中にいるが、発展途上国には、病気の発病と死亡原因の八〇パーセントは水に関係があるという。透明の飲み水を飲めるのはわずかな国だけで、茶色い泥水を飲んでいる国もある。しかも、そんな泥水をくむために一日のほとんどの時間を費やし、学校にも通えない子供たちもたくさんいる。きれいな水で手や身体を清潔にする事で病気もかなり予防できると思うが、そもそもその水が無いのである。

日本に住んでいる私達は「水」は無限にあると勘違いしてはいないだろうか。

現に、水道の蛇口をひねれば、いつでも透明できれいな水が出てくる。しかし世界に目を向けてみると、こんな驚沢な暮らしをしているのは、わずかの人間達だ。こんなことで果たして良いのだろうか。

水は「無限」ではなく「有限」で貴重な資源であることを忘れていないだろうか。水なくしては、人間も全ての生物、植物も生きられない。人の体重の約七〇パーセントが水分で、そのうちの二〇パーセントがなくなる、生きられないのである。

普段食べべている野菜や肉を作るためにも大量の水が必要になってく

る。日本は食料をはじめ多くの物品を輸入にたよっているので、世界の水問題の深刻化は私達にも無関係ではない。

もし渇水が起ったらどうなるのか。

水不足になり、農作物も深刻なダメージを受け、工場では水を使う製品は製造中止となり、家や学校で水が使えなくなり、水は飲めない、食事も作れない、風呂にも入れない。

では、どうすればよいのか。

まずは「水」についてしっかり考える事。普段使用している水を汚さないようにする。毎日の生活で使う水の量を減らす工夫をし、常に節水を意識しなければならないと思う。

例えば、川や海の水の汚染を考える上で、食器を洗う際には、予め新聞紙などで汚れをとり、ため水につけ、洗剤を少量しか使用せずに洗う。使用済みの天ぷら油などは、不要になった紙にしみこませて燃える「ゴミ」として捨てる。洗顔や手洗い、歯みがきの際は水を出しっぱなしにしない。お風呂の残り湯は洗濯用の水として使う。シャワーの使用量に注意する。トイレでは洗浄バーの「大」「小」を使い分けて使用する。

こうして考えてみると、いくらでも節水するための方法がある。しかし、今までの私は無意識に水を無駄に使っていたように思う。おいしい水を守るために、私たち一人一人が節水に対する意識を持ち、日頃から水を大切に使うように心がけることがとても大切だと思う。

水不足によって、生活用水の不足だけではなく深刻な食料不足や生態系への影響をもたらすことも忘れてはならない。

日本ができることは、水に対するさまざまな経験や技術を途上国に対して教え、技術的援助や資金的援助も行っていくことだと思う。

私はユニセフやNGOの活動に興味を持っているので、ボランティア活動として募集をしたりする事も、世界の「水」で困っている人達の助けになるのではないかと思う。

私達一人一人が限りある水を守ろうとする心を持つべきである。

水とホタルの輝き

近畿大学附属東広島中学校 二年 山形 実穂

私は小さいころからホタルが大好きで毎年6月ごろホタルのたくさんいるところに連れていってもらっていた。ホタルを夢中でつかまえたし、手のひらにのせてじっとながめたり、とにかくホタルが大好きだった。私の家の近くの小川でも数匹見ることができた。しかし、最近ふとそのことを考えてみると去年もおととしも、私の近くの小川では、ホタルを見ていないことに気がついた。

そこで、私はホタルについて母に聞いてみた。すると、ホタルはきれいな水のある所でしか生きられない、とても水に敏感な生き物だということだった。もしかしたら、私の家の近くの小川の水は昔に比べて、きたなくなっているということなのかもしれない。しかし、よく考えてみると、私の家の近くには、工場がたまったわけでもなく、新しく大きな団地ができて住宅が増えたというわけでもない。とすれば、各家庭から出る排水がきたない、また、農業では農薬をたくさん使用したり、自然にとって有害な農薬、水を排出しているのではないかと考えることができる。もしそのようなことがおこっているのだとしたら、ホタルだけでなく、ほかの虫や魚にもホタルと同じようなことがおこっているのかもしれない。そう思うと、かわいそうだし、やはり私はホタルが大好きだから、この先もずっと見ていきたい。それに、この先の未来の人達にも、ホタルの美しさを見て、美しいと感じてもらいたい。ほかの生き物にしても同じことだと思う。

しかし、未来の人達にもホタルの美しさを見て感じてもらうために私ができることはほんの少しかもしれない。その中でも、私が今できると思うことは何なのか、考えてみた。

一つ目は、すでに我が家ではやっていることなのだが、自然にやさしい石けんを使うということだ。これは母に聞いたことなのだがもともとは体にやさしいという理由で始めた石けんだったらしいが、石けんは、ポディーソープや合成洗剤に比べて、分解されやすいので自然にもとてもやさしいということなのだそうだ。

二つ目は、洗うことを考える前に、まずよこれものをあまり出さないようにすることだ。例えば、よこれたお皿はボロ布でふぎとってからあらうことだ。これも、一つ目と同じように、自然にやさしく、お皿のほうもすぐきれいになり、水のムダも防ぐことができる。

このように、小さなことかもしれないが、私はホタルを守るため、自然を守るため、自分のできることをまず、しっかりとやっていきたいと思う。

私の家の近くの小川で、なぜホタルがいなくなってしまったのか、本当のことは私にはわからない。けれど、私達が気がついていないだけで自然は少しずつ、変化しているようだ。ホタルは、その変化を私に教えてくれたのだ。

この先、二十年後、三十年後、私が大人になっているとき、あの美しいホタルの姿が見られるか楽しみだ。

水と私たちの生活

広島市立船越中学校 二年 白築 千夏

人間の約六十パーセントから七十パーセントは水でできている。もし、水がなくなると私たちは生きていけないだろう。

私は、夏の暑いときに水分をあまりとらず体調を悪くしてしまったことがある。それは汗などで水分が蒸発したのに、水分をとらなくなったので、体内の水分が奪われたからだ。

それ以外にも、水がないといけない理由がある。わたしたちは日々水を使って生活をしている。もし、生活の中から水がなくなるとご飯を作って食べたり、飲み物がなくなり、栄養や水分がとれなくなるだろう。その他にも、洗濯をしたり、お風呂に入ったり、手を洗ったりできなくなり、汚れが取れないまま食事をするとうち感染症などの病気になるだろう。それとトイレも出来なくなったりと普段の生活が出来なくなるだろう。

しかし、蛇口やシャワーの水を出しっぱなしにするようなもったいない水の使い方をする人もいる。日本は人口の集中や山がちな地形などの理由で、家庭から出る水を処理する下水道の普及がなかなか進まず、処理がきれいな地域もある。処理しきれなかった水がそのまま川に流れると水が汚染して魚も住めなくなる。そうすると、私たちが食べている魚の値段が上がったり、食べられなくなるだろう。それに、汚染した水をそのまま浄水場で飲み水に変えることが出来るのだろうかと不安に思う。水を飲めなければ、人の命も保障できない。

この様な状況にならないために、私は何が出来るか考えてみた。それは、下水の水をちゃんと処理できるように、節水をする必要があると思う。そのために、まず洗面するときや炊事するときの水の出しっぱなし

しをやめることが必要だと思う。その他にも、風呂の残り湯を、洗濯や掃除に使ったり、むだなシユースやフーメンのスーヴなどを流さないようにするなど、私たちに出来ることはたくさんあると思う。

私たちは、水によって生命を維持することが出来るが、今回の東北の地震の様に水によって、たくさんの被害が出ることもある。水は怖い物でもあるのだなと気づいた。水は限りがある資源なので大切にしないといけないと思う。私たちの未来にも永遠に水があるように引きつがなければならぬ。そのために、今私たちの出来ることをやっていかなければならないと思った。

水の色

広島市立船越中学校 二年 松井 咲穂

水が無くなった世界をあなたは想像できるだろうか。私がこの質問に答えるとするならば、その世界には色が無い。森林も花も食べ物も、ほとんどの物に水がふくまれている。だとすれば、水が無くなると、地球のほとんどの物が消滅するという事になる。それは、この地球の色がほとんど無くなるという事と同じ事なのではないだろうか。水が無くなるという事は、私たちが思っている以上に大変な事なのだ。水は、人間が生きるためには絶対に必要な物といってもおかしくない物だと私は考える。

だが、今の日本での水の使われ方はどうだろうか。必要以上に水を使っているか。水の大切さをきちんと分かっているか。一人一人ふり返ってみれば、たくさん思いつく事があると思う。私も、お風呂の時のシャワーを無駄に出していたり、手を洗う時石けんを付けながら、出しっぱなしにしたり、色々な場面で水を必要以上に使っていた。それは、水の大切さをしっかり考えていなかったからではないかと私は思う。

世界の中では、水を飲む事すら難しい国がある。だが、日本は本当にめぐまれている。蛇口をひねれば水が出てきて、のどが乾いたと思えばいつでも水を飲む事ができる。そういう不便無く暮らせる国は、どうしてもその物の大切さを忘れがちになる。しかし、めぐまれた環境で育ったからこそ、そこをしっかりと分かる必要があるのでは無いだろうか。今あるこの環境がいつ壊れるか誰にも分からない。広島に落とされた原爆、東北大震災、そのような事が起きると誰が想像しただろうか。また、そのような事が起こるから水を大切にしておきなさいと誰が教えてくれたのだろうか。だから、今この環境はいつまでも続くとは言えないのだ。

では、今の私達には何ができるだろうか。水を節約しながら使う事。必要以上に水を使わないようにする事。思いつく物はいくつもある。しかし、本当にそれは続くのだろうか。水を大切にしよう、無駄使いは止めよう、と呼びかけられてそれをやるのは、ほんの少しの期間では無いだろうか。言われてやるという意味が無いのだ。では、どうすれば良いのか、それは、一人一人が水についてもっと考え、理解していく事が大切だと私は思う。水について理解していれば、自然と自分から水を大切にしようという気持になれる。だから、水について少し考えてほしい。そんな簡単な事をやる事によって、この世界の色は知らないうちに守られるのだと私は思う。

水

広島市立船越中学校 二年 山田 莉々

人間の体の約60%は水でできている。ということは、水がないと人間は死んでしまうことが分かると思う。水は、人間が生きていく上でなくてはならない存在である。

では、今の私達の水の使い方はどうなのだろうか。私は、改善しなければいけないと思う。家や学校で、水が出しっぱなしになっているのを見たことがあると思う。また、自分が出しっぱなしにして注意されたこともあるだろう。他にも、手や顔を洗う時に水を止めていない、や、風呂の残り湯で洗たくをしていない、など、日々の生活で雑な水の使い方がされていると思う。少しのことだが、これをたくさんの人がしてしまうと、大変なことになることが分かると思う。このようにみると、やはり私達は水の使い方を改善しなくてはいけない。

私達が大切な水を雑に扱ってしまう原因の中で私が一番思うことは、水道からきれいな水が出てくるのが当たり前になっている、ということがあると思う。現在の日本は、他の先進国と比べても、上水道の設備が整っている。だから自然ときれいな水が出るのが当たり前になっていて少しくらい水をむだにしてもいいや、という気のゆるみがあるから、水を雑に扱ってしまっているのだと思う。これを改善するには、きれいな水が出るのが当たり前だ、という固定観念を払拭するしかないと思います。小さなことからずっと同じ環境で育ってきた私達にとっては容易なことではないが、意識をして生活すればできないことではない。私自身も、水が出ることに感謝して生活していきたい。

では、もし水がなくなったらということを考えてみよう。まず大変なことは、飲料水である。前にも述べたように、人間は水が飲めないと死

んでしまう。もし水がなくなれば、大変なことになるのは間違いない。次に大変なのは、生活用水である。まず、水がないと作れる料理の数が極端に減ってしまう。料理を作るには思った以上にたくさんの水を使う。直接鍋の中に入れる水だけでなく食べ物を洗ったり、つけたり、もどしたりするための水も必要だ。水が使えないとこのような作業が全てできなくなる。とても不便なことが分かると思う。他には、お風呂に入れない、食器が洗えなくなる、洗たくが出来なくなる、の3つがある。この3つができなくなると、とても不衛生になる。不衛生だと虫が寄りついたり、病気になるったりと良いことはない。やはり水がなくなると、私達の生活がとても大変だ。生死に関わる問題であることもある。

水は大切に使用しなければならぬと分かった所で、私が考える水を大切に使う方法を述べたいと思う。

まず一つ目に、水の重要性をたくさんの人で理解し、共有しなければいけないと思う。水の重要性が分かっていると、水を大切に使うことは難しいと思う。まずは、水が大切なんだ、水がないと大変なことになるんだ、という考えを、頭で理解することが大切だ。

二つ目は、今の水の使われ方を見直さなければならぬと思う。水の重要性を頭で理解した後、それを実践していかなければ意味がない。水の使い方を見直すことによって、今の自分の水の使い方が分かり、これからどのようにしていけば良いのかを理解することができる。

水は必要だ。だからこそ、一人一人が努力していかなければならない。

水があるじょうじょうまれる生活

広島市立城山北中学校 三年 井上 遥香

私は水の大切さを改めて実感しました。なぜなら、昨年三月、東日本大震災が起こりました。震災後、食料などは一人あたりとても少なく、水もほとんどないので食べる、飲むということがどんなに大切かテレビで見ているとても実感しました。

ただでさえ、私達が日頃生活していく上で水がないと薬が飲めない、手を洗うことができない、植物に水をあげたり、水を使って作る料理ができないということがあります。

その中で、植物に水をあげることができないという現象に目を向けてみると、植物ということは森林ということと同様で、森林に水をあげることができないと考えられます。そのことから、森林で木が育たないと、紙を作ったりすることもできません。私達が生活するための原点は水だと私は思います。

話は変わりますが、今現在水の使いすぎに注意するということがよくいわれます。

水を使う量を減らすためには、水の使い回し、例えばお風呂の残り湯を洗たくをするための水として使う、それと米のとぎ汁を植物にあげる水として使うということが考えられます。その他にも、歯を磨くときや、シャワーをしている時には水を出しっぱなしにしないということに注意したらいいと思います。

まだまだたくさんあると思いますが、一人一人が気をつけたら少しは減量すると思います。

その他には、私のおばあちゃんが行なっている例をあげてみると、私のおばあちゃんは畑で野菜を栽培しています。畑には野菜の種類が多く

たくさん栽培しています。そのたくさん野菜に水をあげるのにはたくさんさんの面積に水を与えないといけません。たくさん水があるので私のおばあちゃんは畑にため池をつくって、雨がふったときにたまるような取り組みを行なっています。ため池にたまった水でたくさんさんの面積で育てている野菜に水を与えています。梅雨のときには、雨がたくさんふるるのでほとんどホースの水を使うことはありません。それはいいことだと思います。

私はキャンプに行ったとき、森の中に流れている水が好きです。なぜなら、あの流れる姿、流れる水の音、水を触ったときに感じる冷たさが好きだからです。私はキャンプに行った時、その冷たい水で足や顔を洗ったことがあります。本当に本当に冷たくてきれいでとっても気持ち良かったです。

私は将来、水が生活用水と食料などの用水と積極的に区別したらいいと思います。

例えば、手を洗ったり、野菜等を洗ったりするのはきれいな水を使い、洗車をしたり、トイレに流れる水、畑にまく水等は雨がたまった水でいいと思います。そうすると、水がもっとよりよい工に取り組めると私は思います。

切っても切れない

広島市立城山北中学校 三年 瀧川 里奈

水は人が生きていく上で最も重要なものだといっても言いすぎではないと思います。なぜなら、人の体重の約7割は水分で、体内の2割の水分が失われると、生命を保つことができないからです。それを抜きにしても洗濯や炊事など、人の生活に水は大きく関わっています。水と人の関わりは、切っても切れない、というよりは切られたら大変という感じが私します。

しかし、その水の使用量は年々増加していて、雨の降る量が少ないと深刻な水不足におちいってしまうことが問題になっています。水不足は人が生きていく上で深刻な問題です。では、一体どうすれば水不足が解決できるのでしょうか。

現在は科学が進歩して、水不足の対策のために排水再利用や海水の淡水化利用が使われるようになりました。しかし、それは私には本当に水が不足したときのための最終手段のような気がしました。なぜなら、海水を淡水化したりするには結構な時間が必要になると思っし、お金もたくさんかかると思うからです。

だから私は、水不足を解決するには節水を心がけることが一番いいのではないかと思います。身近にできることでは、水を意味なく出しっぱなしにしないとか、お風呂の水を洗濯に利用するとか、考えればたくさんあると思います。節水コマという、蛇口から出る水が半分になる道具などを利用するのも工夫の一つだと思います。これらはもちろん水道代の節約にもなります。

もしかしたら、私一人だけが節水しても意味がないと思っている人もいるかもしれませんが。私もそうだと思います。水不足を解決するには、

一人だけでなくみんなが節水を心がけなければなりません。しかし、みんながしないからといって、節水しないのは、何かちがう気がします。そういう意識で一人一人が節水を心がけていくことが大切なのではないでしょうか。

私は節水することを通じて、水の大切さがわかるのではないかと思います。なぜなら水を節水することは水を大切にあつかうことだと思うからです。

もし、この国の一人一人が水を大切にあつかうことができれば、切っても切れないならぬ、切られても切れない関係を水と築くことができるのではないのでしょうか。

水を大切にすること

近畿大学附属東広島中学校 二年 岡田 茜

昨年三月、東北で東日本大震災が発生しました。家が津波で流されたり、壊れてしまったりした人の為に避難所がいろいろな所にできました。私はその避難所で水が不足していて、飲み水は確保できるように、食事の時は皿にラップなどをして洗い物をなくしたり、お風呂にはいったり、洗濯したりしないなど、なるべく水を使わない工夫をしているというニュースを見ました。

私はこのニュースを見て、普段の生活で私達は水をあまり大切にしていけないな、と思いました。普段の生活で私達は、歯をみがいたり、皿洗いななどをしてる間、水を流しっぱなしにしたりして、水を無駄にしていることが多いからです。

また、アフリカの砂漠などでは、深刻な水不足もおきている、と聞きました。地球の表面の三分の二程度は水でおおわれていますが、その内九十七パーセント程が海水で、残りの三パーセント程の内でも人間が生活に利用できるのはごくわずかです、人間の飲み水になるのはもっと少ないそうです。

人間の体の半分以上は水分だといわれていますが、地球上の水のバランスを見ると、日本のように雨が多く降りあまり水不足にはならない国もあれば、雨がほとんど降らず、年中水不足に悩まされている国もあり、水が自由に使える国と水がほとんど使えない国の差が激しいです。

また、そこにある水が安全かどうか分からないところもあります。日本でも昔は工場などから有害な物質が川に流されて、その下流の人々に影響を及ぼす公害がおきたこともあります。

まだ世界には汚染された川や湖から水を汲み、生活に使って病気になる

ったり、汚染された水を使って農作物を作ったりしている人もいます。そんな人達の為に海外青年協力隊などのボランティアの人達が活動しています。まだまだ数は減っていません。

私はこれらのことを聞いたり、調べたりして、私達にできることはなにか、と考えました。

そして私達は世界にまで影響を及ぼすような力を持っているわけではないので、小さいけれど、水を大切に、無駄にしないようにすることから始めるのがいいと思います。

普段、自然に洗い物などの間に水をこまめにとめたり、蛇口から水が出ているのを見つけたらすぐにしめたり、水をたくさん使う洗濯をする時はできるだけまとめて洗うようにしたり、フライパンなどを洗う前に油污れをいらなくなった布などで拭き取ったり、米のとぎ汁を野菜や花を育てている鉢植えにかけたりして、水をなるべく使わないようにすることならばまだ中学生の私達にもできるし、水を大切に使うという意識も生まれると思います。

そういう小さな事で水を大切に使う心、水を無駄にしない心が生まれたいと思います。

そして、小さな事を続けようとする心を忘れないようにしたいです。

「水」のありがとう

近畿大学附属東広島中学校 二年 遠原 雅也

ぼく達は水道の蛇口をひねると水が出てくるので水に不自由しない毎日を送っています。

しかし、ぼくは昨年の冬、祖父母の家へ泊まった次の日の朝「水って本当にありがたいものだ」とつくづく思った事がありました。

それは、水道管が凍結してしまい蛇口をひねっても水が出なくなってしまう時のことです。

最初ぼくは、すぐに水が出るだろうから少しがまんすればいいんだと軽く考えていました。しかし、一時間経っても二時間経っても水は出ません。祖父は「前の日から水を出しておけばよかった」と後悔していました。

結局水が出始めたのは、ぼくが水が出ないと知ったときから六時間経ったお風呂過ぎでした。

ぼくは、これで水が飲めると思いとても安心しました。

以前、ぼくは、世界の中には、飲み水をくみに遠い所まで行っている村があるということをテレビで知りました。ぼくは、今までは蛇口をひねれば出るものだと思っていたので、とてもびっくりしました。そして、ぼく達は何て幸せなんだろうと思いました。この村の人たちが大事な水を、ぼくは、蛇口をひねればいつでも手に入るといふ思いがあるから水を無駄にしていることがつきました。

例えば、歯みがきをした後、口の中をすすぐ時、コップに水を入れてすすぐばいいのに水を出したまま、手にくんですすいでいたという事です。ぼくのすすぎ方では、口をすすいでいる間、水は出しっぱなしで水を捨てているのと同じです。遠い所まで水をくみに行かなくてはいけな

い、あの村の人のことを思ったら、ぼくは、とても恥ずかしくなりました。もつこれからはやめようと思いました。

そして今は、コップに水を入れてすすいでいます。今、ぼく達は、蛇口をひねれば、いつでも安全な水を手に入れることができます。

しかし、それができなくなった時のことをぼくは今まで考えたことがありませんでした。もし手に入らなくなったら、ぼく達の今の幸せな生活はなくなってしまいます。そうならないためにも、ぼく達ができることを少しずつでもいいから、心がけてはいけないと思います。

ぼくが思う、心がけなくてはいけないことは、一つ目は、水の無駄使いをやめることです。一人一人がたくさん蛇口から水を出さず使う量だけ出せば、無駄使いは減らせると思います。

二つ目は、水のリサイクルです。例えば、米のとき汁などを植物の水やりに使うということです。皆さん、米のとき汁は捨てているものだと思います。米のとき汁だつてりっぱに役立つものなのです。他にも、水の有効利用にはお風呂の残り湯を洗たくの時に使うということもあります。一回のお風呂で大量の水を使います。そのまま捨てたらもったいないと思いませんか？洗たくに使えば新たに水を使わなくて済むし、湯の方が洗剤がよく溶けて汚れがよく落ちると思います。一石二鳥です。

このようなことをめんどくさがらずに、一人一人がすれば、どのくらいの水を節水できるかわかりませんが、かなりの量の水を節水できると思います。

小学校の頃、ぼくは、今の水は、昔に降った雨が地下を通ってわき出たものだと思いました。今、ぼく達がたくさんの水を飲めるのは、昔の人が水を大切に生きてくれたからだと思います。

みなさんも、少しずつでもいいから未来の人のために節水を心がけていきましょ。